

〔第8回〕

NCGG-RI 研究発表会

National Center for Geriatrics and Gerontology, Research Institute

運動器疾患のゲノム研究

運動器疾患研究部 骨細胞機能研究室

渡邊 研 室長

2016年4月12日(火) 16時00分
第1研究棟2階大会議室

高齢者のADLを損なう運動器疾患は、高齢者のQOLならびに介護予防において最重要課題のひとつである。生物製剤の開発・実用が進んでいる骨粗鬆症やリュウマチとは異なり、変形性関節症や脊柱管狭窄症は罹患者が多いにもかかわらず、その開発基盤となる分子情報が限られている。一方、広義の「ゲノム」研究として、トランスクリプトームやプロテオームを含む分子構成要素の網羅的解析は今世紀に入りめざましく発展してきており、それを支えるバイオバンク事業は世界各国で整備されつつある。NCGG病院やバイオバンクとの共同で分子レベルの解析がなされていなかった脊柱管狭窄症について、手術材料（黄色靭帯）を用いたオミクス解析を通して研究の糸がかりが得られ、加齢が最も大きな発症リスクとなる高齢者の運動器疾患で加齢による現象と病的変性が切り分けられる可能性が見えてきている。この会ではオミクスデータを用いた解析事例と進捗等を紹介させていただきたい。

座長：渡邊 淳